

2025年(令和7年)3月20日号【第366号】

BATPOST

よい会社をつくろう よい経営者になろう よい経営環境をつくろう

(一社)広島県中小企業家同友会 福山支部報

3

2025
March



新会員オリエンテーション 一言挨拶

Contents

環境副大臣 小林 史明氏寄稿	P02
全研in愛媛	P03
地区会だより	P04
部会だより	P09
委員会だより	P10
支部理事会報告	P13

県スローガン

Human First! ～新時代へ挑戦～

福山支部スローガン

私たちが創ります 私たちの学び舎を
～いまこそ主体的に動こう～



よい会社をつくろう よい経営者になろう よい経営環境をつくろう

(一社)広島県中小企業家同友会 福山支部報

発行責任者 広報委員長 春名 孝一郎

〒720-0066 福山市三之丸町8-16
福山ニューキャッスルホテル B1F
TEL 084-923-0286 FAX 084-923-0284
URL <https://www.hiroshima.doyu.jp>
e-mail fukuyama@hiroshima.doyu.jp

今日の環境問題について 地元中小企業家への期待



寄稿者
環境副大臣 小林 史明氏

平素より格別のご指導、ご鞭撻に、厚く御礼を申し上げます。

昨年11月に環境副大臣を拝命いたしました。環境副大臣としてのミッションは日本が強みを持つ環境産業を、国際市場のもとで稼ぐことのできる成長産業にするとともに、人の命と健康を守り、地球の未来を守ることです。

地球温暖化が進み、日本に限らず世界を襲う災害が激甚化しています。まさに気候変動・環境対策は日本だけでなく、世界で取り組むべきテーマです。

同時に、昨年日本の人口は約86万人減り、2050年には1億400万人になることが推計されています。今後の日本ではいかに人口が減少しても経済社会を成長、発展させていくかが課題になります。

人口が8割になっても成長できるようにするには、今まで10人で担っていた仕事を8人でできるようにすることです。そのためには、効率化と高付加価値化が鍵になります。

効率化を進めるためには、今まで私も尽力してきた規制改革で徹底して既存のルールを見直し技術の活用を進めること。土地利用の規制緩和により工場等の整備をしやすくするなど、中小企業の設備投資の促進が重要になります。

高付加価値化は、まずは何よりも価格転嫁対策、企業や働く皆さんが適切な対価を得られるよう政府も取り組みます。国も地方への交付金を倍にして、行政から発注している発注金額を、物価上昇と賃上げ分を乗せて発注を行うことで地域の隅々まで利益が回るようにします。

そして、輸出やインバウンドで海外に販路を広げることも必要になります。

日本には優れた技術やサービスを持った企業が数多くあります。その企業の生み出す製品やサービスは、価格競争力だけでなく、環境への配慮や省エネ、健康に良いなど、付加価値がさらなる競争力となり、世界の企業から選ばれるようになってきています。皆さんの製品を海外の新しいお客様に届け、今まで以上に高い価格で販売できるように、展示会への出店や認証取得など輸出をサポートします。

インバウンドは2030年には6000万人、消費額は15兆円を超えます。日本での体験をもとに、ECを利用して地域の特産品を海外の人が直接購入する。海外のSNSからヒット商品が生まれる。その様な事例が数多くあります。

まだまだ地方には数多くのチャンスがあります。これからも誰もがフェアにそのチャンスを手にすることが出来る社会になるよう、全力で取り組んで参りますので、変わらぬご支援賜りますようお願い申し上げます。

第9回環境経営・地球環境交流会 in広島のお知らせ

6月26日(木)・27日(金)は広島の地で「第9回環境経営・地球環境交流会」が開催されます。2日間の開催ですが、2日目は見学会のみの予定なので初日だけの日帰り参加も可能です。

数年ぶりに広島の地で復活を果たす記念的な本全国交流会、人口減少著しい日本において、持続的に発展する鍵となる効率化・高付加価値化のヒントを得られる内容になっていますので、福山支部からもぜひ多くの方にご参加を頂けますようお願いいたします。



福山支部環境経営委員長
兼 第3分科会座長
高橋克直(1)

中小企業問題全国研究集会に参加して

■日時：2月6日（木）、7日（金）

■会場：愛媛県民文化会館ほか

2月6日、7日愛媛県で中小企業問題全国研究集会が開催されました。1日目は14の分科会に分かれ、2日目は全体で記念企画と特別講演が行われました。

1日目に参加した分科会は『全社員が活躍できる企業をめざす！』『ダイバーシティが生み出す宝物』『というテーマで神奈川同友会の(有)川田製作所の川田俊介氏が報告されました。同社では障害者や高齢者また外国人労働者の方など多彩な才能を持たれた方々を雇用し、それぞれの才能を上手に引き出され成果をあげられていました。今の社会は多種多様な価値観が増している中、そうした価値観を理解しようとするのが重要だと思っています。それは社員も一緒でありそれぞれの考えを理解し尊重することで会社の考えを理解していただき実践していく、それは企業が成果を上げていくとても重要なプロセスだと思いました。まずは社員に興味を持ち個人面談などでしっかり話を聞いて本当の意味でのパートナーになれるよう頑張ろうと思いました。

2日目に印象的だったのは特別講演で『地域と人をつなぐ次世代に心の豊かさを残す』『ポテンシャルが潜む地方で挑み続ける経営者』というテーマで(株)今治・夢スポーツの岡田武史氏(サッカー元日本代表監督)が講演されました。同社は『次世代のため、物の豊かさより心の豊かさを大切にする社会づくりに貢献する』という企業理念を掲げ、岡田氏のサッカー指導者としての経験を基に人材育成に力を注ぎ、地方から様々な活動をすることで新しいコミュニティを作り、その輪を広げ、いずれば日本の未来をも変えたいとの想いで活動をされています。人材育成のお話の中で、人は役割を持ち自分で考え行動することで成長する。その過程の中で指導者は簡単に答えを与えるのではなく、根気強く見守ることと言われ、普段早く結果を得たい自分はずいぶんアドバイスとか口をはさんだりしているの、すぐに意見を言わないように気を付けようと思いました。



(有)高山工業
高山稔基(2)

目指せ、健康経営！

～みんなのジムニーランドで機能改善体験～

■日時：2月21日（金）

■報告者：(株)キャリーカンパニー 谷村友飛氏

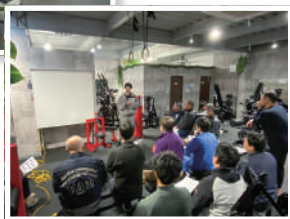
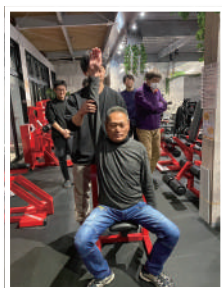
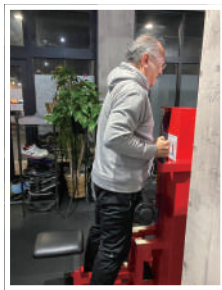
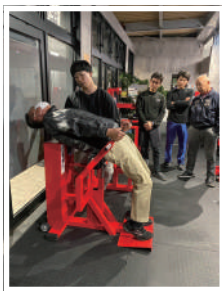
■会場：健康テーマパーク

■参加者数：18名

みんなのジムニーランド

地区会だより

A地区会



A地区の2月例会では「目指せ、健康経営！～みんなのジムニーランドで機能改善体験～」をテーマに、(株)キャリーカンパニー 取締役 兼 店長 兼 リアル筋力インストラクター 谷村友飛氏にインストラクターにもなつて頂き、会場のジムニーランドにて機能改善マシンの体験とジムニーランドの現状報告を行って頂きました。三現主義(現場に行き、現物を見て現実を知る)で意見交換も行い、参加者の皆さんが肌で感じた意見もお伺いすることができました。機能改善マシンの体験では、肩やひざ、腰など様々な箇所の痛みや違和感に悩む方が代表して機能改善マシンを用いての実演がありました。谷村氏の説明の基、実際にマシンを使用してみると、肩の上の方が変わった人や、すっと立ち上がれるようになった人など目の当たりにして、最初は半信半疑でしたが、私も実際に指導を受けながらマシンを使ってみると確かに使用前と比べて体の動きが

全く違う事にびっくりしました。谷村氏の説明も体の構造や動き方など理論的に説明頂き、頭と体で実感することが出来ました。体験後はスライドを用いて谷村氏から事業説明や現在の悩みの共有がありました。特に集客についての悩みが大きくありましたが、参加者からは実際に使用したという事が一番分かりやすいとの意見が多くあり、入りやすい店舗構えも必要なのはアドバイスもありましたが、谷村氏が現在どんなお客様に店を利用しているのうって欲しいかを明確にすることが大切だという意見でまとまりました。今後もより一層活躍して頂き、地域に元気で健康な人が増える事を願っています。



平和建設(株)
岡田一真(A)

知ることが防災の第一歩 ～家族と会社を守る為の心構え～

■日時：2月17日（月） ■講師：防災士 細谷恵子氏
■会場：県民文化センターふくやま ■参加者数：48名



2025年2月17日、県民文化センターふくやまで、この度は外部講師の防災士 細谷恵子先生をお招きして「知ることが防災の第一歩～家族と会社を守る為の心構え～」という題名で講義をしていただきました。

企業防災という重要な項目で、防災マニュアルや防災グッズの常備など、実はやっているようでやっていない事に気付かされました。先生から、地区特有でもあるが、福山など山陽地区は災害が滅多になく、平和ボケしていると厳しい指摘もあり、「もしも」の時の備えは今のうちに行う事、またスタッフを守る為にも早急なマニュアル作成が重要と感じました。



(株)EVER BLUE
村上達則(B)

グループ討論を行いました。3つの議題で、例えば(台風警報発令。あなたはスタッフを早退させますか？業務を優先させますか？)など、その議題で「はい」チームの意見、「いいえ」チームの意見を述べそれぞれの主張を行いました。案外、自分と反対の意見を考えるのは難しく「反面重要な事も見えてくる事もあり、各々メリット、デメリットがありそれぞれの職種の特性も考慮した上で活発な意見が出ました。答えはないというのが率直な意見ですが、その場で最もベストな答えに近い導くのは「日頃の準備」という事を痛感しました。

3

たちまち登録しようや、皆でやれば楽しいぞ ～企業変革支援プログラム～

■日時：2月19日（水） ■報告者：(株)豊田工業所 豊田克浩氏
■会場：市民参画センター ■参加者数：24名



(株)yoasobi
水戸伸治(D)

D地区の2月例会では、企業変革支援プログラムの活用について(株)豊田工業所 豊田克浩氏にご説明頂きました。

今回は企業変革支援プログラムに取り組み方というエントリー自己診断を元に行ったのですが、内容が進めば進むほど経営理念や経営方針など、会社をまとめる者として通常理解していないといけない部分の理解度の低さを痛感させられました。ただ個人としてはこういった自己診断を年一回でも行えば客観的に自社を見ることが出来るメリットと、現状とのギャップを認識することで今後の方向性を明確にできるいい機会となりました。

グループ討論では、正直できていない部分が多すぎて恥ずかしい気持ちもありましたが、同じようにうまく取り組めない方もおられたり、また会社によって悩まれている課題にも違いがあることも印象的でした。またグループ発表ではこういった課題を解決するには仕組みも大事ですが、会社には社長と社員の考えを浸透できる風土作りが重要だ」という発表がありました。まさにその通りだと感じました。そしてその風土を作れていないのも私自身だと反省させられました。

今回の例会に参加したことで取り組んでいかないとけない課題がはつきりしてきましたので、一つ一つ実践して今後に活かしていこうと思います。

4

覚悟から誇り ～良い会社にするために～

■日時：2月18日(火) ■報告者：茂平運送(有) 松枝真二氏
■会場：ローズコム ■参加者数：31名



E地区2月例会はローズコムにて茂平運送(有) 松枝真二氏の体験発表を行いました。大学卒業後、証券会社を経て家業の運送会社に入社した当時は、売上を他事業に頼っていた一社依存で赤字だった運送事業に何の疑問も感じていなかった。そんな中で先輩社員から会社への不満をぶつけられ会社の現状を知る事になり、これではいけないという事で自社の特長を作るべく、大手がやらない事をやるうと取引できそうな業種を絞りニーズのある平ボディーのトラックに変更するなど業績を上げる努力をしてきました。

しかし、あまり良い結果が出ない中で先代との関係悪化・債務超過の現状でも他責にしていた自分を変えられたきっかけになったのが同友会との出会いでした。初めて聞いた発表に衝撃を受け、自社も同じように社員がいきいきとした会社になりたい、誇れる会社になりたいと思いつける先輩経営者に話を聞き実践し他責だった自分を変えられる事ができた。



(株)ココジャネ
岸本一彦(E)

面接のコツ ～中途採用Ver～

■日時：2月19日(水) ■講師：池永経営社会保険労務士法人 藤井喜八郎氏
■会場：エフビコアリーナ ■参加者数：32名



F地区会

F地区2月例会は、F地区2グループが担当させていたいただきました。タイトルは、「面接のコツ」中途採用Ver」と題し、B地区より池永経営社会保険労務士法人 藤井喜八郎氏を講師にお招きしました。面接前の準備から面接中の質問事項や注意事項に至るまで面接という枠組みの中で幅広いトピックについて深掘りして頂きました。多くの参加者から、「凄く学びになった」という声を頂きました。

まず、面接とは非常に大きな買い物である事を認識しました。その為、面接前の準備が非常に重要であり、面接とはその確認作業であることを学びました。求める人物像を明確にし、履歴書の内容を細かくチェックする事が採用活動を成功させるための基盤であることが強調されました。さらに面接中のテクニックについても多くの学びがありました。特に「答えを待つ」姿勢を大切にする事や、候補者の反応を見る事でその人の本質を理解する、という部分が印象的でした。今後の面接にすぐに活かせる実践的な内容ばかりでした。



(株)BrightFuture
阿吹拓哉(F)

DXを課題解決の武器に！ 成功事例と実践のヒント

～現場発の実践事例から学ぶ、中小企業の可能性～

■日時：2月19日(水) ■講師：(株)太陽都市クリーナー 森山直洋氏
■会場：ローズコム ■参加者数：25名



成功事例と実践のヒント



講師：森山直洋氏



企画運営チーム赤崎

後半の質疑応答では、DX導入時の課題や抵抗勢力への対応策、ITツールの活用方法について活発な議論が交わされた。森山氏は「楽しんでDXを進めることが、成功の鍵」と強調し、経営者自らが率先して取り組む重要性を説いた。

森山氏は、業務効率化や働き方改革の推進においてDXが果たす役割について具体的な事例を交えながら講演。例えば、オンライン名刺交換の導入により情報共有の円滑化を図り、また教育現場ではリアルタイムでテストを実施できるクイズシステムを活用することで、DXの実用性を示した。

2025年2月のG地区例会では、(株)太陽都市クリーナーの代表取締役である森山直洋氏を講師に迎え、中小企業におけるDXの導入事例とその成功の秘訣について学んだ。



DXを課題解決の武器に！



小林弘樹
社会保険労務士事務所
小林弘樹(G)

また、クラウド化の進捗やSNSを活用した求人活動、福利厚生充実といった、企業が直面するDX関連の課題についても具体例を交えて説明された。特に、ペーパーレス化やAI技術を活用した運転管理システムなどの事例には多くの参加者が関心を寄せた。DXは単なる業務効率化の手段ではなく、企業の競争力を高め、求職者や顧客に選ばれる要素にもなる。本例会を通じて、DXの導入に向けた新たな視点やヒントを得ることができた。

参加者は、DXの可能性を改めて認識し、自社での実践に向けた具体的なステップを考える機会となった。今後も継続的な学びと実践が求められるだろう。

やる気に満ちた優しいチーム作りの 課題と実践報告

■日時：2月17日(月) ■報告者：松永花壇 杉田憲吾氏
■会場：西部市民センター ■参加者数：12名

I地区会



2月のI地区例会では、松永花壇代表者兼、組織委員長、杉田憲吾さんに、組織のあり方について、報告していただきました。

杉田さんが、組織委員長として活動していく際、愛読した「だから僕は組織を変えていく」(齊藤徹(著))をベースに、目指す組織像や時代の変化、家業・組織委員会のお話などを交え、これから目指していく組織、実践していることなどお話しいただき、とても勉強になりました。

その中でも、家業を継いでいく中で、子どもに言われた一言から出てきた、自分の目指していく先「子どもから憧れられる大人、親になる」というモノを見つけ、それがベースとなり、今の組織運営を行っていることに、とても共感しました。

報告後のグループ討論では、「自分自身や社員スタッフのやる気を上げるためにしていることは？」について討論を行いました。自身に関して、様々なお話を聞かせていただき、共感や新たな視点などに気づかせていただきました。社員スタッフに関しても、組織を率いていく中で、期待してしまう部分期待以上の反応など、これから自分自身が経験していきたい事を、先輩方に教えていただき、とてもありがたい、貴重な時間になりました。

今回、組織のあり方について考えていく中で、自分や組織に「芯となるモノ」がある事で、その先の有り様が大きく変わることの学びを自分自身にしました。この学びを自分自身の有り様や事業に、昇華していきます。



Kyykx.s Product
佐藤佑樹(I)



トマトで繋がる地域の和 ～絶望を体験した赤木昭弘ストーリー～

■日時：2月17日（月）
■会場：ローズコム

■報告者：鍛冶屋農園 赤木昭弘氏
■参加人数：28名



池永経営（株）
渡辺昌弘（J）

J地区の2月例会は赤木昭弘氏による体験発表でした。赤木氏は神石高原町にてトマト栽培をされています。農閑期は酒蔵で蔵人もされています。今回はトマト栽培への思い、農業を通して地域に何が出来たのか、自身の経験を生かして悩みを抱えている人、心に大きな不安を抱えた方の支援ができないかなど、赤木氏の今後の未来像（ビジョン）も織り込まれた内容でした。

赤木氏は農業を始める前は役所で仕事をしておられ、そこで自分自身も気付かない内に心が追い詰められていき役所を辞めて山籠もりをしたり、大阪へ放浪したり、他人から見ると謎の行動ですが、本人は絶望の淵に立っていました。しかし家族の一言で救われ農業の道へ歩み始めたそうです。

2023年1月に会社を設立し、トマト栽培をされていました。が、農業にも「経営」が必要なのではないか、そもそも「経営者とは？」という悩みや不安や迷いが生じ、2024年の2月に同友会へ入会されました。経営労働委員会へも参加して経営理念の作成に着手します。まだ途中段階ですが、着実に思いが形（言葉）になっていっています。完成が楽しみです。

今回のグループ討論は若く悩みも多く進むべき方向も不安な赤木氏へ先輩経営者からのアドバイスをもらいました。今はトマト作りを極めるべきや「遊び心（余裕）を持つべき」や「農閑期にも何かやるべき事があるのではないかなど。業種は違えど「経営者」の先輩からの厳しいが貴重な意見。参加者全員が赤木氏のこれからを考えヒントになればとの思いでした。

最初はパワーポイントもなかなか使えなかった赤木氏でしたが、何度も小グループを回しても素晴らしい発表・例会になりました。ありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

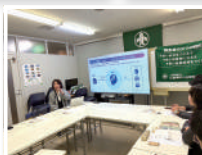
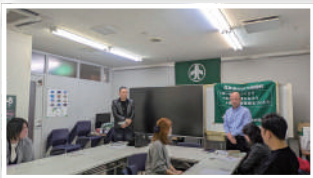
地区会だより

J地区会

中小企業こそ、AIと友達になろう！

■日時：2月19日（水）
■会場：事務局

■報告者：いろは（株） 松本美樹氏
■参加者数：18名



K地区2月例会では、松本が「中小企業こそ、AIと友達になろう！」をテーマに発表を行いました。今回の報告では、AIの活用方法や最新トレンド、自社での実践事例について詳しく紹介。AIは人間の仕事を奪うものではなく、「人間とAIのコラボレーション」によって業務効率や生産性を向上させるツールであると強調しました。

特に、バックオフィス業務の効率化や、文章作成、データ分析といった具体的な事例を通じて、AIの可能性を解説。参加者の皆さんは熱心に耳を傾け、活発な質疑応答が行われました。中でも、「AIのセキュリティ面やコスト面」についての質問が相次ぎ、導入方法や注意点についても具体的に回答しました。



いろは（株）
松本美樹（K）

その後のグループ討論では、「御社ではAIをどう活用するか」をテーマに意見交換が行われ、参加者からは「チャットGPTを使った業務効率化のアイデア」や、「AIによるマーケティングの可能性」といった積極的な意見が飛び交いました。

例会後の懇親会は、「大衆焼肉 しんすけ」にて行われ、AIの話題を中心に親睦が深まりました。参加者同士の交流も活発で、情報共有や今後の連携についての話も弾みました。

地区会だより

K地区会

第一回P地区MG (マネジメントゲーム)研修

■日時：2月8日(土)～9日(日) ■講師：(株)IMPACT 田中隆司氏
■会場：ペアコム ■参加者数：12名



「同友会でマネジメントゲーム(以下MG)がしたい!」の想いから企画を初めて、通常の例会とは違い、土日の二日間を使って念願の同友会MG研修の開催をすることができました。

西研究所公認インストラクター(株)IMPACTの田中隆司氏を講師としてお招きし、笑いあり、学びあり、気づきありの講義からスタート。何の為にMGをするのか?「気軽に楽しく、経営と会計が身につく事」そして「普段の無意識な習慣により薄れてしまっている『気づきのアンテナ』を張りめぐらし、自己の人間力向上のためである」ということ。MGのグラドルルールとして、教えない(失敗から学ぶ気づきの機会を奪わない)教え合い(ルールや自身の変化を共有)紙は自分で(他責ではなく全て自責)は、同友会活動をする中で共通する所が多々あり、参加者は講義を聞きながら共感、理解のうなずきの多い学びの時間でした。

は全員赤字。しかしそこはさすがP地区会員、「安売りはいけん!」あの時こうだったから!と、すぐに気づきを共有します。MGはゲームの後、自分自身で会計を行い、決算書(マトリックス会計表)を作成します。これがまた数字が合わない。書いては消して、書いては消して、頭から煙が吹き出すメンバ。ゲームで頭フル回転。決算でまたフル回転。そんな中でも2日間の5期のゲームを通じ、やってみて、失敗して気づき、その後その失敗を繰り返さない!と経験を活かす意思決定を重ねる姿は美しさがありません。

2日間のMGを終えておそらく参加者は、翌日頭の筋肉痛に苛まれていたと思いますが、疲れ切った中でもこれは続けていかなければ効果が出ない!という感想を受け、次回開催への弾みがついた2月例会でした。参加者の皆さんお疲れ様でした。またMGやりましょ!



(有)徳毛レジ
徳毛裕介(P)

8

さなだ地所は3年後に信頼度、知名度、実力で 府中市でNo.1の不動産会社になる!

■日時：2月19日(水) ■報告者：(株)さなだ地所 近藤寛治氏
■会場：ジーベックホール ■参加者数：27名



2月19日(水)ジーベックホールにて、S地区2月例会が催され、小森グループの(株)さなだ地所 代表取締役 近藤寛治氏が報告を行った。

近藤氏は、義父が一人で切り盛りしてきた不動産会社を継承するため、新卒以来、勤めた医療関係の会社を退職し、5年前に不動産業界へ足を踏み入れた。

50歳を過ぎた転職は、予想以上に困難を極め、自らの信条と義父からの指導との間で悩み続ける毎日だった。



豊田産業(株)
豊田裕子(S)

その一方、定年後、同社へ入る予定だった妻が、早々に退職し、加担してくれた事で、大きな力となり、現在は夫婦で業務を分担し、昨今、大きく取り上げられる空き家問題に、府中市の不動産問題解消の大命題を掲げ、日々、奮闘している。

グループ討論では、参加各社の強みを生かしているかのテーマで活発な討論が繰り広げられた。

8

底辺からの現在!～やればできる～

青年部だより



■日時:2月3日(月)
■会場:県民文化センターふくやま

■報告者:ヒューマンリンクFP事務所 細川幸宏 氏
■参加者数:41名



青年部の2月例会は、「底辺からの現在!」と題して開催された。今回は、ヒューマンリンクFP事務所の細川幸宏氏を報告者に迎え、ご自身の経験をもとにした貴重なお話を伺いました。

細川氏は自身の人生を振り返り、どん底から這い上がる過程で得た教訓や気づきを熱く語ってくださいました。どんな逆境にあっても、挑戦し続けることの大切さを伝えていただき、参加者は真剣に耳を傾けました。

報告後の質疑応答では、参加者から多くの質問が寄せられ、細川氏の経験や考え方についてさらに深掘りすることができました。その後、グループ討論では「脱皮したきっかけ」をテーマに意見交換を実施。各グループでは、自身が成長するターニングポイントや変化のきっかけについて話し合い、それぞれの経験を共有しました。



いろは(株)
松本美樹(K)

あるグループでは、「環境を変える勇氣が大きな転機になった」「周囲の人との関わりが成長の力になった」といった意見が飛び交い、学びの多い討論となりました。最後には、各グループからの発表が行われ、全員で気づきを深めることができました。

今回の例会を通して、参加者一人ひとりが「なぜか成る」考え行動し成す」という年間テーマを改めて実感することができました。

例会後の懇親会は「大衆焼肉 しんすけ」にて開催され、リラックスした雰囲気の中でさらに交流を深めることができました。

次回の3月例会も、皆様のご参加をお待ちしております!

女性部2月例会in愛媛全研

女性部だより



■日時:2月6日(木)～7日(金)
■会場:愛媛県県民文化会館ほか

■参加者数:1名



2月例会では全研に参加し、他県の方々と交流や分科会での学びの機会を得ました。私は「人を生かす経営の実践(多様性への対応)」というテーマの分科会に参加しました。

このテーマでは、外国人雇用における社内対応や、経営方針の社員への意識づけについての実践的な取り組みが紹介されました。特に印象に残ったのは、外国人労働者を採用する際に直面する文化や言語の違い、そしてそれをどのように乗り越えてきたかというお話です。経営陣が率先して多様性の重要性を認識し、その価値を社員に浸透させるために行ったさまざまな努力について、具体的な事例を交えて紹介されました。

特に定期的な研修やチームビルディング活動を通じて、社員同士の理解を深め、国際的な視野を広げることができたという話が心に残りました。



ホリスティックブレイン学院(株)
藤原留衣(B)

また、経営方針を社員に意識化させる方法についても学びました。経営理念を日々の業務にどう結びつけるか、社員一人ひとりがその重要性を感じながら働く環境づくりの重要性が強調されました。

このような取り組みを高め、企業全体の成長にも繋がるという点がとても印象的でした。今回の経験を通過して、多様性を活かした経営は、単に企業の社会的責任を果たすだけでなく、企業文化や組織の成長にも大きく寄与することを再認識しました。今後、私自身もこのような視点を持ちながら、職場での人材活用やチームワークの向上に努めていきたいと考えています。この貴重な学びの機会を得ることができ、心から感謝しています。

入会しました

2月7日（金）にローズコムで、新会員オリエンテーションを開催しました。先輩会員の体験報告は、
（株）川瀬工具店 代表取締役 油藤智子氏（S地区）が務め、同友会での学びや会社の変化を報告しました。
BATPOST3月号では当日参加した新会員の内、原稿を寄稿いただいた4名の方々をご紹介します。



まるまるデザイン

代表 藤原寿子（A地区）

はじめまして。福山市駅家町で活動する「まるまるデザイン」と申します。HPやLINE公式、チラシなどを通じてクライアントの売り上げ向上をお手伝いしています。
同友会では、先ゆく先輩の経験談を学びながら成長したいです。どうぞよろしくお願いいたします。



（同）エトスアップ

代表社員 蛭川万貴子（B地区）

福山暁の星女子高等学校を卒業以来、32年ぶりに福山に戻りました。「コミュニケーションで企業や人を豊かにする」をミッションに、採用支援・広報支援・コミュニケーション研修などの事業を展開しております。皆さまから学ばせていただきながら、お役に立てるよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。



Kyykx.s Product（キークスプロダクト）

代表 佐藤佑樹（I地区）

I地区に入会したキークスプロダクト代表、義肢装具士の佐藤です。主にご自宅やイベントなどにお伺いし、独自開発のインソールを提供しております。
ご縁は、遊湯ランニングクラブ主催、栗村さんに誘われたことです。



竹中工業(株)

取締役 竹中 誠（S地区）

2025年2月に入会しました、竹中工業株式会社の竹中誠です。昨年11月に異業種から転職し、営業担当として経営に携わることになりました。同友会の皆様と積極的に交流し、ご指導頂く中で、経営者として成長できればと思っています。宜しくお願い致します。

経営労働 委員会

経営基礎講座 第4講経営方針編

第3回「経営方針の立て方を学ぼう」

クロスSWOTを活用した経営方針の立て方・実践

■日時：2月28日（金）

■報告者：パンズグリル 小川尚範氏

■会場：事務局・Zoom・サテライト

■参加者数：34名



今回の経営基礎講座は経営方針編「経営方針の立て方を学ぼう」としてオンラインでの解説はなく、討論から始まりました。今まで学んできた方針を発表しあい、意見をもらいました。

経営方針は、経営理念を具体的に実現する為のもので経営の方向性を定める為の重要な要素です。まず、一人ずつ出ているところまで発表しました。発表の中で地域に必要とされる企業になる、困りごとが発生した時自分の顔を思い浮かべてもらえるようにしたい。その為に地域の行事に積極的に参加して自社を知ってもらう事が大事だ。更に専門的な分野に特化して同業者同士で提携していく努力をしている。AIにより仕事が減っていくのではなく理解し活用することで業務改善していく必要がある等の発表がありました。



鉾金工房カーリーペア(株)
羽原由晃(D)

課題として販路開拓や自社の認知度の低さそして社員が働きやすい環境をつくる、自社で働くことが誇りに思ってもらえるようなホワイト企業を目指す必要性を感じました。

起業するのは簡単だが、労務管理の知識がないまま起業する人が多い気がする。簡単でもいいから教育を受けてから起業すればよい会社が増えるのでは？という意見もありました。確かに私も何の知識もなくスタートしました。しかし同友会で人を生かす経営や労務、理念、指針の大切さを知りました。まだ指針は完成してませんががんばりと見えてきたように思います。引き続き経営労働委員会に参加して色々な意見交換して完成させたいです。

政策 委員会

福山学① 世界バラ会議

■日時：2月4日（火）

■講師：福山市市長公室 世界バラ会議推進室 室長 大本貴淑氏

■会場：事務局

■報告者：(特非) どりいむスイッチ 中村友紀氏 (J地区)

■参加者数：17名



2月政策委員会では5月18日から福山市で開催される世界バラ会議について勉強しました。世界バラ会議とは3年に1度開催されるバラの国際会議です。今回は第20回で世界40か国から400人以上の専門家が福山市を訪れてバラに関する講義や殿堂入りバラの選定そして市民の育てたばらや景勝地など福山市の各エリアツアーをする予定になっています。この一連の国際会議イベントはMICE（マニエス）と総称されており観光事業の柱の一つとして注目を集めています。

福山市として初めて受け入れる本格的な国際会議を契機に、ソフト・ハード両面でマイス受け入れ環境を整備して今後更なるマイス誘致につなげていけるのは国内外に福山市の魅力のアピールして福山市民であることの誇りシビックプライドを醸成したいと考えています。



(株)イアック
内海陽平(D)

また、今回併せて勉強したローズマインドプロジェクトでも思いやり、みんなで助け合う心で対話交流を広げて福山を良くしようと言われてました。福山市民が誇りを持てる街になつていけば国内外から福山市に住みたい、福山市に戻りたい、働きたい人が増え各社が抱える人材不足に関する多くの問題の解消にも繋がってきます。

最後になりましたが、福山市市長公室世界バラ会議推進室 大本貴淑室長氏、NPO法人どりいむスイッチ 中村友紀氏 限られた時間の中で大変学びの深い勉強会でありがとうございました。市民全体で5月17日から24日のび世界バラ会議関連イベントを盛り上げて行きましょう！

バリアフリー 委員会

児童養護施設と 中小企業家同友会のこころの交流

■日時：2月12日（水） ■報告者：日祥化工(株) 前川 順氏（京都）
■会場：事務局・Zoom ■参加者数：28名



前川 順氏



(株)タカハシ
高橋克直(1)

バリアフリー委員会の2月勉強会は「児童養護施設と中小企業家同友会のこころの交流」というテーマで、京都同友会さんから日祥化工(株) 代表取締役 前川 順氏（貸衣裳屋さん）をお招きして体験発表を行いました。

いつもと違う所は、これまで多くの重役を歴任された前川社長の報告でしたので、いち企業の報告内容を越えて京都同友会さんの取り組みの報告になっていた事です。

勉強会の内容としては、児童養護施設の存在意義や社会背景を学び、その対策となる取り組み事例の報告でした。みなさんは両親と一緒に生活する事が出来ない子どもが何人いるかご存じですか？なんと全国に4万2千人もいるそうです。親の死亡や病気、虐待など。最近では親が服役しているからという事情の子どもも増えているそうです。そういった子どもたちの多くは「両親と生活する事は命がけ」だそうで、「愛着障害」という心の病を発症している子どもも多いようです。具体的な症状としては、他者との距離感がつかめず（近すぎるor遠すぎる）就職はできても職場の定着がなかなかうまくいかないのだそうです。

そこで京都同友会さんはまず関係性から構築するという手法を採用し、児童養護施設を訪問して1人1人の子ども達を1人の人間として認めていきました。すると施設の子どもの達の方から「同友会いっくんねん？（京都弁）」とオファーがもらえるほどになったそうです。その月イチ訪問の取り組みは現在も続いているそうです。

グループ討論では「あなたには何が出来ますか？」という内容で討論し、中には里親をしているという会員もおられ、何が出来るかという発想の幅を広げる事が出来ました。討論のまとめとしては、こういった社会問題があるという事に対して関心を持ち、周りに発信していくことが大切（無関心が一番よくない）という共通理解に至りました。

私自身、何年か前にタイ人の女性をホームステイで1週間受け入れた事があり、その経験から里親も出来そうだと思って色々調べた所、里親になるのはなかなか高いハードルがあつて今まで敬遠していましたが、時期を見て再度チャレンジしてみようと思えました。勉強会の構築に携わった皆様、大変お疲れさまでした。

条例 プロジェクト

福山市経済環境局経済部と 広島県中小企業家同友会福山支部幹部との懇談会

■日時：2月18日（火） ■参加者数：18名
■会場：事務局・又来軒



(有)大下木型製作所
大下真司(P)

2月19日同友会事務局にて、福山市と広島県中小企業家同友会福山支部幹部との懇談会が行われました。福山市からは7名、同友会からは11名計18名の参加でした。

この懇談会は最初から数えますと7年目に入り、いつもは経済環境局経済部の皆さんと懇談会を行います。今回初めて、企画政策課の皆さんも参加されました。日頃の事務局と福山市とのこまやかなコミュニケーションも背景にあり、段々と繋がり広がりを実感しています。

懇談会の中身という点で恒例になつていまして、それぞれ旬なテーマをお互い発表しあつてからグループに分かれて意見交換を行う流れになっています。

まず福山市からは市の施策についてのお話がありました。福山市の二〇二五年度重点政策について、グリーンな企業プラットフォームについて、外国人材活用への多文化共生の取組、環境対策支援の補助金について、工場などを立地するための民間開発事業についてなど幅広い報告が各担当者からありました。各施策はしっかりと考えられており、私達経営者は、福山市はいまどこに向かっているのか？どのようなこと力を入れているのか？しっかりと知ることが大事だと感じました。

次に、同友会からは先日行われた政策アンケートのまとめを塩出政策委員長が報告され、福山支部の皆さんの声を届けました。この

アンケートのどの部分が今後の市の施策に活用され、生かされているのを知りたい旨もお伝えしました。

その後、グループごとにテーマを分けて「共働き、共育て」「外国人雇用について企業の取り組みはどう進めていくかについて話しました。

私のグループは、外国人雇用がテーマで福山市としては福山で日本語を勉強して地元企業で働いてもらいたい、都会で就職してしまつた問題や企業の受け入れの問題など多々問題がありました。各社外国人雇用の事例を報告しつつ、多くの問題がありすぎるので一旦しっかりと整理してひとつひとつクリアしていくことが大事だという意見が多まりました。

その後、場所を隣の又来軒に移し、今度はお酒を飲み交わしながら交流を深めました。

この懇談会が未来ある福山市への官民一体となつての動きの一歩になればよいのと条例制定に向けての歩になればよいと感じています。参加された皆様ありがとうございました。

第10回 福山支部理事会 報告

2025年2月26日（出席者 30/32）

【報告】経営課題と政策要望のアンケート結果報告 [塩出政策委員長]

●福山支部では会員数658名に対し、回答者429名、65.2%の回答率となりました。初の400名、60%越えです。県全体でも会員数3,005名中2,072名が回答、69.0%の回答率となりました。支部によっては7割を超える回答率もありました。

◀報告概要▶

- アンケートでは県全体の経営状況のDI値が6となり、前回から2ポイント悪化。経営上の問題点は、人件費の増大、従業員の不足、仕入先からの値上げ要請が上位3つに。
- 金融情勢では資金繰りのDI値が12となり、前回から6ポイント悪化。原材料の高騰は6～10%増が30%と最多、変わらないと答えたのは14%に低下した。
- 従業員の賃金は「上げた・上げる」が68%。上げ幅が3～5%が55%とトップ。回答者の81%が今後も上げると回答。
- 価格転嫁の回答。物価上昇分の価格転嫁がまったく出来ていないと答えたのは29%、賃金上昇分の価格転嫁が出来ていないと答えたのは39%となった。
- 福山支部の経営状況は、DI値が5.8と前回からダウンし、下げ幅は県より大きい傾向。経営上の問題点（3つまで回答可）は4割超が人件費の増大と回答。資金繰りのDI値は16.4とこちらも前回から悪化。
- アンケート結果は源田専務理事が日本銀行広島支店や公正取引委員会に報告に行き、e.doyuの掲示板で結果報告をしている。引き続き、報告を上げていくのでご覧いただきたい。今回は解説動画もあるので合わせてご視聴をお願いしたい。

■質疑応答

Q)石川E地区会長

- アンケートの結果はどのように活用されているか。また回答数をどれくらい追い求めていくのか、地区会から質問が出ている。

A)塩出政策委員長

- アンケートの結果がすぐに政策に反映されるというわけではなく、積み重ねた結果がそうなると思っている。アンケートの結果や外部への訪問結果は、e.doyuの掲示板にアップしている。見るかどうかは個人の判断になるが、情報を発信していることは知っていただきたい。
- 回答数については個人の事情もある中で地区でお願いしていただき、申し訳ない気持ちもある。ただ、アンケートは中小企業のリアルな声をなるべく多く届けるという意義もある。設問内容は県委員会でもやみくもに多くならないよう検討、調整している。アンケートは定期的に回答することで会のためだけではなく、自社の定期診断のためにもなると考えている。福山支部の政策委員会でも同様のことをお伝えしているので、ぜひ地区からも委員会に参加いただきたい。

【討議事項】

- 「総会議案（中間総括）について」 問題提起：掛江総会議案委員長
- 本日の資料に中間総括の議案資料を添付しています。議案の内容は前回の討議事項、議案のアンケートをもとにまとめたものです。
- 議案書は会社の経営指針書です。全体ではなく、項目を絞って討議していただいてもかまいません。議案に組み込んでほしいこと、修正点、表現方法の変更などご意見をお願いします。
- ※「総会議案（中間総括）の追加・修正」をテーマにグループ討論を行いました。内容は省略します。

●まとめ

[掛江総会議案委員長]

- もっと多くの会員に議案書を読んでもらうためには、支部理事のリードが必要。本日のご意見は地区会等でも共有をお願いいたします。
- 議案書には極力皆さんのご意見を掲載したいと考えています。QRコードなどはよく検討してから対応していきます。議案書は会社の経営指針書です。議案書を地区会等でも共有し、迷うことがあれば議案書を読むという流れを作っていただきたいです。
- 本日のご意見は議案書に反映し、また確認いただけます。貴重なご意見をありがとうございました。

■報告・連絡

●専門・委員会

①広報委員会

- BATPOST原稿の提出が遅れています。未提出のところは締め切りまでに提出ください。

②経営労働委員会

- 事前資料に経営指針と障害者雇用の調査結果の中間報告を掲載しています。確認いただき、地区会でも再度、告知にご協力をお願いします。

③求人社員教育委員会

- 4月に新入社員研修を開催します。現在申し込みは13名です。参加条件の

問題は実行委員会にて現在調整中です。各社で入社予定の社員さんがいらっしゃれば、ご参加をご検討ください。

④地域内連携推進委員会

- 7月の企画のお知らせです。イベント名は子どもが参加しやすいよう「ふくやま企業の夏まつり」に、日程は7/12(土)の1日開催になりました。福山支部40周年同様、福山市教育委員会の後援をお願いしたいと考えています。
- 明日からe.doyuで出展企業40社を募集します。出展料は企業が1ブース5,000円、飲食が2,000円です。定員に達し次第、締め切りますので、地区でも周知をお願いします。
- チラシと合わせてスタンプラリーを小学校に配布予定です。スタンプラリーはイベントまでに会員企業を訪問し、達成者には当日の特典を付ける企画を行います。こちらの協力企業もe.doyuで募集します。
- 地区会の出展は任意で出展料も無料です。地区でご検討ください。

■県関係の報告

①県理事会の報告

- 来期の予算決算の検討を行いました。今期は黒字の見込みですが、県委員会等の予算請求を合計すると来期は2千万円の不足という状態です。予算不足の原因の一つが予想よりも入会が増えなかったことです。財政のために増強をするわけではないのですが、安定した学びのためにもそこにも目を向ける必要があるのでは、と思いました。引き続き、財政部を中心に検討していきます。
- 今月の県理事会は久しぶりに福山で開催しました。福山在住の経営者としてはもっと福山で開催してほしいと思いましたが、理事の交通費を考慮すると致し方ないのかな、と思いました。
- (塩出政策委員長)
- 宮崎県委員長に代わり、県政策委員会の「経営課題と政策要望のアンケート」ご協力のお礼を申し上げます。

■その他の報告

①ビジョン委員会の報告

- 内容がほぼ完成しています。あとは細かい修正等を行うのみです。福山支部のビジョンは県の中期ビジョンに沿って作成しています。本日のビジョンの内容で修正要望があれば、ビジョン委員会事務局にお知らせください。

②支部活動費の執行状況

- 1月末で65.6%の執行状況です。詳細は資料をご覧ください。
- 総務委員会では決算見込みまで確認し、予算712万円の収入予算に対し、およそ707万円の決算収入を予想しています。正式な収支報告書は3月末の決算をもって決定します。

【承認事項】

①入退会の承認

■入会希望者(3名)

井上創建 代表 井上俊太(B)

事業概要 エクステリア

相席BAR encount 代表 高智浩貴(E)

事業概要 お酒の提供・ダーツ・カラオケ・40～50人ぐらい収容可能

竹中工業(株) 取締役 竹中 誠(S)

事業概要 油圧式テーブルリフト・搬送機器・産業用機器等の製造、点検、修理、その他製缶加工。

■退会希望者(1名)

(有)皿谷モータース 代表取締役 皿谷 利満(J)

以上、承認されました。

これにより福山支部の会員数は660名となりました。

【閉会あいさつ】

[藤井友副支部長]

- 本日はご討議ありがとうございました。アンケートの回答結果が最高数値となったのは、地区会長をはじめとして動いて下さった皆さんの賜物です。私の地区でも地区会長と協力し、地区のメンバーに協力してもらいました。こういった積み重ねが地区例会や支部例会、県や全国行事の参加にも波及していくのだと思います。
- 議案書はいろんなことを前向きにとらえて頂きたいと考えています。残念ながら退会してしまった方にとって、同友会とはどんな場所だったのだろうと思うことがあります。私たちが伝える役割もありますが、一方で受け身ではなく情報を取りに行つてほしいとも思います。支部理事会は、伝える側と情報を取りに行く関係作りの場です。議案書も意見を次につなげていきます。本日もありがとうございました。